



5年越しの憧れの頂

---

## 越後 御神楽岳大蕎麦谷左岸尾根

栗原

【日時】 2008年2月9日～11日

【メンバー】 栗原L・佐貫・棚橋

### 2/9 晴れ

タクシーから見る景色は、少々黒っぽい。昨年ほどではないが、今年も雪は少なめのようだ。檜山でタクシーを降りる。他の二人はフリートレックを持って行くのに若干懐疑的だが、昨年の経験から上部では絶対役に立つと二人を口説き、フリートレックをつけて林道を歩き出す。林道の終点辺りから登りだすが、登りだしの急斜面を乗り越すと斜面はスキーに手頃な斜度が尾根まで続いていた。尾根上は細くてスキーが使えないのではないかと思っていたが、所々急なものの、思ったよりもずっとスキーが使える。ただし、時々出てくる下りでは(私のみ)コケまくり板が外れまくって、思ったよりもずっとスキーが使えてない私だった…。

そんなこんなでなかなかスピードが上がらず、P672mまでが意外と遠かった。せめてP814mまでとひたすら歩くが、途中斜度がきつくて板を外し、腿ラッセルになったこともあり、P814mの手前で幕を張る。

### 2/10 晴れのち曇り一時雪

夜少し雪が降ったものの、朝起きると意外にも晴天だった。これなら行ける！と嬉しい気持ちで出発する。ここからはずっとスキーが使える。まずは大森山を目指すが、ブナも出てきてなかなかいい雰囲気だ。ずっと膝ラッセルで進んで行く。大森山の杉を越え、少し登ったところで、この天気ならトレースも消えないだろうと不要な荷物をデポ、身軽になって山頂を目指す。ブナがきれいでパウダーもあり、ここを滑ったら気持ちいいだろうなあと思っただけは浮き立つ。斜面を登り切って方角を東へと変えるところは、去年大田原さんと涙を呑んだムサ沢右岸尾根との分岐である。今回は時間的にも大丈夫なので、山頂へ向かう。あいにくこの頃からガスがかかり始めた。風も若干強くなっている。雨乞峰の小ギャップを越えるころは視界も悪くなってきた。山頂直下はクラスト気味なのでアイゼンに変え、ほんの少しで山頂に達した。憧れの山頂は、残念ながら何も見えず、写真だけとって早々に後にする。

雨乞峰の小ギャップは佐貫さんの好ルート取りで乗り越し、シールを外す。その後少しスキーで歩かなくてはならず、少々シールを外すのが早すぎたが、ムサ沢左岸尾根との分岐からはいよいよ滑降だ。さて、楽しい大滑降…のはずが、スキー練習をしていなかった私はコケまくり。途中一瞬だけ楽しいパウダーとブナ森があったものの、全荷

を背負ってからは更に激しくこけ、途中からはあきらめて滑らずに歩いて下りた。快適な斜度なのにもったいなく悲しい…。佐貫さんのみ一度も転ばずに楽しげだった。

途中の地形ははっきりしておらず、何度も地図を見て確認しながら下りる。予定通り680m付近に下り、雪がちらついていることから、翌日の行動を鑑みてこの平らな所で幕とする。予定の尾根はスキーに不向きなこともあり、前日の登りの林道の様子から雪崩の危険は少ないだろうと判断、今晚雪があまり降らなければセト沢林道に下りることに決めた。幸い、雪はパラついた程度でほとんど積もらなかった。

## 2/11 晴れ

気温が上がる前にと早めの出発を予定していたが、ついつい遅くなってしまった。セト沢に向かおうとするが、いきなり流れが出ていたため、シールをつけて少し登り返し、夏道に向かう。私はスキーのメンテが悪く、昨日はスキーの滑走面が団子になっていた。佐貫さんのワックスを借りて塗ったためか、今日はどうやら少しはまともに滑れるようになったようだ。赤布のあった所から夏道沿いと思われるところを滑り、割と順調に林道に出た。林道は一部デブリが出ていたものの、それほど悪い感じはしなかった。それでも気温の上がる前にと、ほとんど休憩も取らずに歩く。雪崩の心配のない所まで来て初めて小休止とした。天気が良く、時間も早くて、昨年下山に必死になっていたのとはえらい違いだ。のんびりとくつろいでからポクポクと室谷まで歩き、タクシーを呼んで御神楽温泉によって帰京した。

【行程】 2/9 檜山8:00～林道終点9:10～大蕎麦谷左岸尾根～ p 850付近16:30 c 1

2/10 c 1 7:10～大森山～御神楽岳11:45～大森山～ p 680付近15:30 c 2

2/11 c 2 7:00～セト沢林道～室谷11:30

【地図】 御神楽岳・室谷

